

機関番号：37105

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2010

課題番号：20605005

研究課題名（和文） シーボルトが集めた「博物」資料のデジタル再構築

研究課題名（英文） Digital restructuring of "[HAKUBUTSU]" material that Siebold collected

研究代表者

宮崎 克則 (MIYAZAKI KATSUNORI)

西南学院大学・国際文化学部・教授

研究者番号：80219758

研究成果の概要(和文)：

本研究は、ヨーロッパ各地に分散して所蔵されているシーボルト・コレクションをリストアップし、資料を 1000 万画素の高精細デジタル・カメラで撮影し、その画像データを集積して「デジタル・シーボルト博物館」を構築すること、九州大学のサーバーを通して Web 上に公開することを目的としている。オランダのライデン国立民族学博物館とパリ国立図書館に所蔵されるシーボルト・コレクションの調査、撮影を実施するとともに、ロシアのクンストカメラ博物館・エルミタージュ美術館・コマロフ植物研究所のコレクション撮影データの整理・WEB 登録を集中的に行い、約 1000 コマについては、九州大学総合研究博物館のホームページ「九州大学デジタル・アーカイブ」で公開した。また、ボフム大学が所蔵するシーボルト弟子たちのオランダ語論文の画像データ公開についてもボフム大学図書館と公開契約を締結し、約 10000 コマの論文画像データを公開した。

URL: <http://record.museum.kyushu-u.ac.jp/siebold/>

研究成果の概要(英文)：

The present study has aimed to list the Siebold collection that distributes in various parts of Europe and is owned, to take a picture of material with the ultra-high-density digital camera of 10 million pixels, to accumulate the image data, to construct "Digital Siebold museum", and to open it to the public on Web through the server of Kyushu University. The Siebold collection owned to a Leyden national ethnology museum and a national library in Paris of the Netherlands is investigated, and taking a picture is executed. The arrangement and the WEB registration of the collection taking a picture data of the [kunsutoka-mera] museum, State Hermitage Museum, and the [komarofu] plant laboratory in Russia were intensively done, and about 1000 scenes were opened to the public in homepage "Kyushu University digital archive" of the Kyushu University synthesis research museum. The Bochum university library of disclosing the image data of Dutch language theses of apprentice Siebold whom the Bochum university owned et al. was concluded with the contract of opening to the public, and the thesis image data of about 10000 scenes was disclosed.

URL: <http://record.museum.kyushu-u.ac.jp/siebold/>

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008 年度	1,700,000	510,000	2,210,000
2009 年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2010 年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	3,600,000	1,080,000	4,680,000

研究分野：日本近世史

科研費の分科・細目：博物館学

キーワード：シーボルト 博物 デジタル再構築 川原慶賀 ライデン 絵画 江戸の慣習 九州大学デジタル・アーカイブ

1. 研究開始当初の背景

1823-1829年、出島のオランダ商館医師として来日したシーボルトは、当初から民族博物館の設立を目指して日本の「博物」資料を収集し、帰国するとすぐにミュンヘンとライデンに民族博物館を設置することを提案している。それに従って、オランダのライデンに世界初の民族博物館が設立され、19世紀後半にはヨーロッパ各地に博物館が設立されていくことになる。シーボルトは何を構想し、どのようなモノを、どのようにして集めたのか、彼が目指した自然史・民族史の枠を越えた「博物」館の姿をコレクションから再構築することによって、新たな博物館のあり方を探る。

出島のオランダ商館医師として日本に滞在したシーボルトは、オランダと日本の貿易のあり方を再検討するため、日本の総合調査をオランダ政府から依頼された。彼が収集したのはまさに「博物」であり、民族・政治・社会に関する書籍や絵画、自然については鳥・魚・植物などの標本を膨大に収集し、ヨーロッパに持ち帰った。そして、それらの資料をもとに、1832年から『NIPPON』、次いで『日本植物誌』『日本動物誌』を刊行し、いまだ未知の国であった日本の社会・自然をヨーロッパに紹介した。

シーボルト以前のケンペルやツェンペリーも日本で「博物」資料を収集し、それぞれに著書を出版しているが、シーボルト収集品は質量ともに両者を遥かに超えている。シーボルトが日本で収集した

資料は、書籍を含めた民族資料が約5000点、植物標本が約12000点、動物標本が約7000点といわれるが、全体像はいまだ十分に明らかでない。収集資料のうち、民具や絵画などの民族資料はオランダのライデン国立民族学博物館に、書籍や地図資料などの一部はライデン大学図書館に、動物標本はライデン自然史博物館に、植物標本は国立植物学博物館ライデン大学分館にある。さらに第2次来日時(1859～62年)のコレクションはドイツのミュンヘン国立民族学博物館・イギリスの大英図書館・オーストリアのウィーン国立民族学博物館にあり、シーボルト自身の手紙や草稿などは、子孫が居住するドイツのブランデンシュタイン城博物館・ボフム大学図書館に、さらに植物画は未亡人によりロシアに売却され、現在はサンクトペテルブルクのコマロフ植物研究所に保管されている。

これらのうち目録が刊行されているのは、ボフム大学(「Acra Sieboldiana」1989年)・ブランデンシュタイン城博物館(「フォン・ブランデンシュタイン家所蔵シーボルト関係文書マイクロフィルム目録」2001年、長崎市教育委員会刊行)・大英図書館(川瀬一馬編「大英図書館所蔵和漢青線目録」1996年、講談社)であり、ライデン大学図書館とライデン国立民族学博物館にある書籍については、「オランダ国内所蔵明治以前日本関係コレクション」(1996年)があるが、これはシーボルト以外の人々による明治期以降の収集分も含まれており、一点ごとに再検

討しないとシーボルト収集の書籍は判明しない。この他の民族資料や動植物標本については、各館で個別に整理はなされているものの、目録は刊行されていない状態である。

このようにヨーロッパ各地に存在するシーボルト・コレクションについて、日本では昭和 10 年に当時の東京科学博物館で最初の展示会が催されて以来、何度も展示会が開かれてきた。それらの図録として、「シーボルトと日本」（1988 年、京都国立博物館他）・「ヨーロッパに眠る日本の宝」（1990 年、長崎県立美術館）・「シーボルト父子のみた日本」（1996 年、江戸東京博物館他）・「シーボルト・日本を旅する」（1996 年、堺市博物館他）・「シーボルト・コレクション日本植物図譜展」（2002 年、田川市美術館他）・「シーボルトの水族館」（2007 年、長崎歴史文化博物館）などがある。ただし、これらの展示会は民具や地図を中心とするもの、シーボルトの専属絵師である川原慶賀の絵画を中心とするものあるいは植物や動物標本を中心とするものなど分野ごとに実施されており、シーボルト・コレクションの全体を展示するものではなかった。

2. 研究の目的

本研究は、ヨーロッパ各地に分散して所蔵されているシーボルト・コレクションをリストアップし、貴重資料を 1000 万画素の高精細デジタル・カメラで撮影し、シーボルトが構想していた日本の民族博物館をそのコレクションから再度築することを目的としている。シーボルトによる資料の収集は、当初から博物館の設立を目的に集められており、彼は帰国後す

ぐにミュンヘンとライデンに民族博物館を設置することを提案している。それに従って、ライデンに世界初の民族学博物館が設立され、19 世紀後半にはヨーロッパ各地に博物館が設置されていくことになるのである。シーボルトは何を構想し、どのような物を、どのようにして集めたのか、彼が目指した自然史・民族史の枠を超えた「博物館」の姿を収集品から再構築することによって、新たな博物館のあり方を考えることになる。

3. 研究の方法

シーボルトが収集した資料は、現在、オランダ・ドイツ・オーストリア・イギリス・ロシアに分散して所蔵されており、年度を分けて各地にあるシーボルト・コレクションを総合的に調査する。平成 20 年度はオランダ、平成 21 年度はドイツ、平成 22 年度はロシアを調査し、作成したコレクションリストをもとに、シーボルトは何を構想し、どのような物を、どのようにして集めたのか、彼が目指した自然史・民族史の枠を超えた「博物館」の姿を収集品から再構築する。

（平成 20 年度）

オランダのライデンには、民族学博物館・大学図書館・自然史博物館・植物学博物館があり、もともと主要なシーボルト・コレクションが集中している。夏期休業期間等を利用して集中的にここを調査した。

研究代表者の宮崎克則が全体を統括するとともに、シーボルト収集の書籍・地図についてリスト作成と高精細デジカメによる撮影を実施する。川原慶賀らが描いた絵画については、野藤 妙が調査した。

研究代表者—宮崎克則（西南学院大学）…
全体の統括と民族・書籍資料の調査、撮影

研究協力者—野藤 妙（九州大学・大学院生）
…シーボルトが集めた絵画の調査

動植物標本については、これまで30年以上にわたりシーボルト・コレクションの自然史関係資料を調査し、数多くの研究成果を上げて来た山口隆男が実施した。

研究協力者—山口隆男（熊本大学 非常勤講師）…シーボルト収集の動植物標本の調査、撮影

調査データおよび撮影画像は、研究代表者宮崎克則が収集し、研究協力者の野藤妙・山口隆男の協力を得ながら、データベースとして整理し集積した。なお、ライデン側の研究協力者として、ボート教授（ライデン大学）・フォーラー教授（民族学博物館）から内諾を得ており、彼らの協力を得ながら以上の調査を実施した。

（平成21年度）

ドイツ・オーストリアに分散するシーボルト・コレクションの調査を実施した。ドイツのブランデンシュタイン城博物館・ボフム大学図書館には、シーボルト自身の手紙や草稿などが保存されており、研究代表者—宮崎克則（九州大学）が調査・撮影を実施した。また、ドイツのミュンヘン国立民族学博物館・オーストリアのウィーン国立民族学博物館には、第2次来月時のコレクションが保存されており、研究協力者の野藤 妙（九州大学・大学院生）が調査・撮影を実施した。なお、ドイツ側の協力研究者として、マティアス教授（ボフム大学）・ブランデンシュタイン氏（ブランデンシュ

タイン城博物館館長）から内諾を得ており、彼らの協力を得ながら以上の調査を実施した。

（平成22年度）

ロシアのサンクトペテルブルクのコマロフ植物研究所には、1866年のシーボルト死去後に彼の未亡人によって、約500枚の植物画が売却された。いまだその全体像は不明であり、リストもない状態であるから、研究代表者—宮崎克則（九州大学）と研究協力者の山口隆男（熊本大学 非常勤講師）がこれを調査し、リスト化した。

4. 研究成果

以上の海外調査とともに、東洋文庫・国立公文書館・国会図書館等が所蔵するシーボルト関係資料を調査し、収集したリストをもとに、シーボルトは何を構想し、どのような物を、どのようにして集めたのか、彼が目指した自然史・民族史の枠を超えた「博物」館の姿を収集品から再構築した。それらの画像は、九州大学総合研究博物館のホームページ「九州大学デジタル・アーカイブ」で公開した。また、ボフム大学が所蔵するシーボルト弟子たちのオランダ語論文の画像データ公開についてもボフム大学図書館と公開契約を締結し、約10000コマの論文画像データを公開した。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計5本）

①宮崎克則「シーボルト『NIPPON』の原画・下絵・図版」（2011年3月 九州大学総合研究博物館『九州大学総合研究博物館研究報告』9号 19～45頁、査読無）

②森弘子・宮崎克則「文化5年、大槻清
準

『鯨史稿』成立の政治的背景」（2011年3
月 西南学院大学『国際文化論集』25-2号 53～
82頁、査読無）

③森弘子・宮崎克則「天保3年『勇魚取
絵詞』版行の背景」（2010年3月 九州大学
総合研究博物館『九州大学総合研究博物館研究報
告』8号 1～16頁、査読無）

④宮崎克則「シーボルト『NIPPON』のロ
シア語版」（2010年3月 九州大学総合研究博
物館『九州大学総合研究博物館研究報告』8号 107
～128頁、査読無）

⑤宮崎克則「シーボルト『NIPPON』の捕
鯨図」（2009年3月 九州大学総合研究博物館
『九州大学総合研究博物館研究報告』7号 85～
103頁、査読無）

〔学会発表〕（計2件）

①報告者 宮崎克則

報告題 シーボルト「NIPPON」の原画・
下絵・図版

年月日 2010年12月11日

会場 岡山県津山市 津山洋学資料館

主催 洋学史学会大会

②報告者 宮崎克則

報告題 シーボルト「NIPPON」のロシア
語版

年月日 2009年3月28日

会場 京都大学

主催 洋学史学会・実業史研究会合同京
都大会

6. 研究組織

(1) 研究代表者

宮崎 克則 (MIYAZAKI KATSUNORI)

西南学院大学・国際文化学部・教授

研究者番号：80219758

(2) 研究分担者

梶嶋 政司 (KAJISHIMA SEIJI)

九州大学・記録資料館・助教

研究者番号：80403939

2008-2009年度

金子 たかね (KANEKO TAKANE)

九州大学・農学研究院・助教

研究者番号：20363227

2008年度